

《学校だより》 ～「朝食・家庭学習・読書」の習慣を育てましょう～



さくら

桜小HP



令和6年度
2月28日
第12号
小樽市立桜小学校

《重点目標》誰一人取り残さない授業を通して、「ひとりだち」～自律の力を育む～

雪解けによる落雪注意！ 屋根の下には絶対に入りません。

**子どもの視点での良い学校とは？ 児童会運営委員選挙を通して
～立候補者も、責任者も、みんな堂々とした演説でした！！～**

評価改善システムに向けた面談等の具体的な取組へのご理解に感謝いたします。

校長 森國 聡



2月20日(木)の5校時に、立ち会い演説会を行いました。

演説会では、立候補者は、もっと良い学校にしたいと述べます。私は、以前から演説の中に学校の課題を見付けるようにしていました。「いじめをなくしたい」「楽しい学校にしたい」との公約があると、ドキッとします。

いじめがある？学校が楽しくない？など、聞いていてドキドキします。児童会選挙は、子どもには学校がどう見えているのかを知るととても良い機会だと考えています。

以下、主な公約ですが、子どもから見た学校の課題とも言えます・・・



- ・ありがとが聞こえる ・みんなが前向き ・陰口を言わない ・5分前行動 ・全学年がなかよし
- ・自ら行動できる ・相手の気持ちを考えて行動する ・笑顔や元気があふれる ・挨拶運動をする
- ・廊下を走らない ・落とし物が少ない学校にする ・全学年が楽しめるイベントをする

卒業式のテーマ

**進め！！新たな未来へ仲間とともに走りだそう
～数々の挑戦を乗り越えて～**



私は、卒業式を子どもたちの実行委員会で組織している学校は初めてです。卒業式を自分事にすることができ、とても素晴らしいことだと思います。

実行委員の挨拶には、一人一人思い出に残る卒業式にしたい、最高の卒業式にしたい、悲しみの涙を流さず、元気に送り出せるような卒業にしたい、6年生が気持ちよく卒業できるようにしたい、卒業式を成功させたいなどの言葉が書かれていました。



スキー学習全学年終了

今年度のスキー学習は、1、2年生はグラウンドで行い、3年生以上は朝里川温泉スキー場で行いました。子どもたちは、滑ることはもちろんのこと準備や片付けも回数を重ねることにどんどん上達していききました。今年度学校で実施するスキー学習は、すべて終了しました。天候や積雪状況に左右されることはありましたが、計画通り終えることができました。

ボランティアとして登録していただいた保護者の皆様には、お手伝いいただき、大変ありがとうございました。来年度も子どもたちのためにぜひお手伝いをお願いいたします。



頼もしいお兄さんお姉さん

14日（金）に体験入学・保護者説明会を実施しました。保護者への説明の間、1年生がお兄さんお姉さんとなり「パッチンがえる」を作るなど、楽しいひとときを過ごしました。緊張気味の新入学児童でしたが、もっと緊張していた1年生。最初はなかなか話しかけられませんでした。ほぐれてくると笑顔があふれてきました。優しく教えてあげている姿を見て、頼もしく成長したと実感しました。



科学館に行ってきました

21日（金）になかよし学級の児童が近隣の特別支援学級の児童と一緒に今年度2回目の交流学习を行いました。行き先は、「札幌青少年科学館」でした。バスの中でともだちとふれあい、科学館では展示や体験コーナーに夢中になり、科学に親しんでいました。



令和6年度全国体力・運動能力調査結果について

5年生を対象に6月に実施した全国体力・運動能力調査の結果が届きました。学校と家庭がお互いの役割を認識しながら、子どもたちの体力向上につなげる必要があると考え、本校の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を皆様にお知らせいたします。

【実技に関する調査】

	桜小男子	桜小女子
握力（筋力）	全国を上回っている	全国を上回っている
上体起こし（筋持久力）	全国を下回っている	全国を下回っている
長座体前屈（柔軟性）	全国を上回っている	全国を上回っている
反復横跳び（調整力、敏捷性）	全国を下回っている	全国を下回っている
20mシャトルラン（持久力）	全国を下回っている	全国を下回っている
50m走（走力）	全国を下回っている	全国を下回っている
立ち幅跳び（跳躍力）	全国を下回っている	全国を下回っている
ソフトボール投げ（投力）	全国を下回っている	全国を下回っている
合計点	全国を下回っている	全国を下回っている

【質問紙調査】

- ・「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」という質問に対して「好き」という回答した割合は男女ともに全国より高い。
- ・朝食を「毎日食べる」と回答した割合は男子、女子ともに全国より低い。

学校としては、これらの傾向をもとに体を動かすことが好きな児童が増えるよう教育活動を進めてまいります。ご家庭におかれましてもこの機会にお子さんの体力や運動習慣について話し合ってみてください。

